

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
自信と誇りを持ち、自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く西溪っ子の育成	①小中一貫教育の充実を図る。 ②自ら学び：学ぶ意欲、課題解決力、考える力を育てる。(知) ③心豊かに：自他の良さを認め、思いやりのある心[恕]を育てる。(徳) ④たくましく：困難に努力し、体を鍛える。(体・食)

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①小中一貫教育の充実を図る。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○小中一貫教育	義務教育学校としての教育課程・学校行事の充実	・学校運営に係るアンケート調査の小中一貫教育の項目で、3.5ポイントを達成する。	・前期後期相互授業参観を道徳2時間、教科等1時間以上を参観し、授業評価シートを活用する。 ・総合的な学習の時間及び特別活動において、児童生徒が直接交流できるようにする。	教務部 高学年	松瀬 藤瀬 田中
	○地域連携	学校運営協議会との連携の充実	・学校運営に係るアンケート調査の地域連携の項目で、3.5ポイントを達成する。	・学校運営協議会やコミュニティーフェスタの際に、授業参観や児童生徒との交流の場を設ける。	管理職	真子 富永
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務効率化の促進	・会議の回数や打合せ時を、昨年度比、平均25%削減する。 ・時間外勤務について1か月当たり前年度比、平均10%削減する。	・PC個人連絡や付箋・メモ等による連絡報告を励行、会議では協議のみを取り扱う。 ・PCによる出退勤システムで各教職員の勤務時間を自己把握をする。	管理職 事務部	古賀 古川 大西
②自ら学び：学ぶ意欲、課題解決力、考える力を育てる。(知)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●志を高める教育	なりたい自分を意識させる活動の推進	自分なりの夢や憧れ明確にもっている又はだいたいもっていると答える児童生徒が、90%以上になるようにする。	・授業や活動に臨む場合、必ず自分の達成したいめあてを考えさせる僅かの時間を保証する。 ・1/2成人式、立志式、卒業式に向け、自分の振り返りと将来の自分を見据える機会をつくる。 ・中学年以降において、佐賀の賢人やマイスター、ものづくりの先輩たちの活躍に触れさせる。	9年 7年 4年	中島 中西 溝上
	●学力向上	基礎基本の確実な定着につながる教育活動の実践	・CRT検査、全国・県学習状況調査において、全国・県平均を上回る。 ・ICT機器を利用した授業を、分かりやすいと感じる児童生徒の割合を80%以上にする。	・学力向上対策シートを活用し、取り組みの工夫改善を行い、また補充学習や個別指導を行う。 ・校内研修において、「学び合い」の視点を取り入れた授業実践を行い、「学び合い」のポイントを明確にした授業研修会を行う。 ・デジタル教科書、自作スライド等を活用した各教科の授業を、前期1日1時間、後期週2回以上を目安に行う。	教務部 低中学年	山下た 江川 末次 山下ち
③心豊かに：自他の良さを認め、思いやりのある心[恕]を育てる。(徳)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	自己肯定感をもたせる実践の推進	・児童生徒意識調査において、自己肯定感にかかわる項目を3.3ポイント以上にする。	・自己肯定感の育成に視点を置いた全体授業研究会を年3回実施し、特別な教科道徳の授業づくりの工夫改善を行う。 ・各学年でグループエンカウンターを年3回実践する。	研究主任 研究副主任 人権・同和担当	卯津江 綾部 志田
	●いじめの問題への対応	いじめの防止の継続的計画的な実践の充実	・いじめ及び児童生徒間のトラブルの見逃しを0とする。	・全教職員が児童生徒の情報の同日中の共有化に努める。 ・定期的な児童生徒アンケートや発達段階に応じた日記から、児童生徒の小さな変化を見逃さない。 ・人権学習に、いじめに気付く内容を年1回以上取り扱う。 ・家庭における些細な気付きでも、学校へ知らせてもらえるように啓発する。	生徒指導主任 生活指導担当 教育相談担当	松田 林 永松
④たくましく：困難に努力し、体を鍛える。(体・食)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の育成と健康づくりの推進	・保護者と連携し、「早寝早起き朝ご飯」を実践し、朝食喫食率95%以上にする。 ・柔軟性と持久力を伸ばす体育的活動を学期1回取り入れる。	・食育に係る児童生徒用アンケートを実施し、実態把握を行う。 ・栄養教諭と連携し、食育の授業実践を計画的に行う。 ・保護者へ児童生徒の実態や授業実践等の情報を提供をし、食育に係る啓発を行う。 ・楽しく継続的に運動できるように、外遊びやスポーツチャレンジ等に取り組む。	体育主任 食育担当 養護教諭	渡辺 大家 川浪
本年度の重点目標に含まれない評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○特別支援教育	特別支援教育の理念理解の推進	・長期休業中の職員研修以外に、短時間の研修や児童生徒の実態理解を行う機会を年4回行う。	・職員会議等で、数分の研修(特別支援教育の視点の意識化)を行う。 ・個別の教育支援計画及び指導計画に基づいて共通理解を行う。 ・PCを用い、特別支援学級の児童生徒が行うピアジョイントレーニングの方法を知らせる。	特別支援教育 担当	角 川原 富増 兼島

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目

